

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月29日
【事業年度】	第39期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）
【会社名】	イーター電機工業株式会社
【英訳名】	ETA ELECTRIC INDUSTRY CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高橋 洋
【本店の所在の場所】	東京都大田区本羽田二丁目16番10号
【電話番号】	03(3745)7771(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部部長 増田 幸一
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区本羽田二丁目16番10号
【電話番号】	03(3745)7771(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部部長 増田 幸一
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	3,229,427	3,341,306	3,441,182	2,749,028	2,767,636
経常損益 (千円)	10,402	112,643	1,622	8,436	13,005
親会社株主に帰属する当期純損益 (千円)	148,938	391,201	331,116	6,118	11,973
包括利益 (千円)	124,551	381,832	339,299	5,496	20,055
純資産額 (千円)	161,827	177,745	284,528	523,680	539,685
総資産額 (千円)	4,322,648	3,881,401	3,385,782	2,962,477	2,643,873
1株当たり純資産額 (円)	14.59	19.05	22.27	40.21	40.91
1株当たり当期純損益 (円)	15.67	38.26	25.63	0.45	0.89
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	3.2	5.1	8.9	18.3	20.9
自己資本利益率 (%)	74.9	-	-	-	-
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	107,061	117,022	104,292	99,098	6,704
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	55,033	9,515	20,701	22,284	3,170
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	168,681	76,890	110,606	48,881	16,358
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	50,210	83,813	56,398	81,561	57,290
従業員数 (人)	150	151	146	142	135
[外、平均臨時雇用者数]	[42]	[43]	[40]	[37]	[35]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、1株当たり当期純損失金額であり、また潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第36期、第37期、第38期及び第39期の自己資本利益率は、債務超過のため記載しておりません。

4. 株価収益率は、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しているため、記載しておりません。

5. 損益に係る項目の 印は、損失を表示しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高 (千円)	2,894,598	3,112,043	3,175,305	2,515,013	2,586,040
経常損益 (千円)	33,061	63,597	73,126	30,664	7,847
当期純損益 (千円)	40,936	447,078	386,988	41,817	888
資本金 (千円)	1,569,111	1,594,109	1,718,534	1,718,534	1,718,534
発行済株式総数 (株)	9,511,067	10,373,067	13,523,067	13,523,067	13,523,067
純資産額 (千円)	28,643	366,062	507,088	546,079	542,642
総資産額 (千円)	4,005,395	3,516,307	3,023,716	2,904,674	2,593,800
1株当たり純資産額 (円)	3.01	35.31	37.52	40.41	40.16
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
(内1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純損益 (円)	4.31	43.73	29.95	3.09	0.07
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	0.7	10.4	16.8	18.8	20.9
自己資本利益率 (%)	83.5	-	-	-	-
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
従業員数 (人)	81	82	77	73	66
[外、平均臨時雇用者数]	[31]	[32]	[29]	[26]	[24]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第35期、第36期、第37期及び第38期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、1株当たり当期純損失金額であり、また潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第39期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 第36期、第37期、第38期及び第39期の自己資本利益率は、債務超過のため記載しておりません。

5. 第35期、第36期、第37期及び第38期の株価収益率は、当期純損失を計上しているため、記載しておりません。

6. 第39期の株価収益率は、当社株式が非上場のため、記載しておりません。

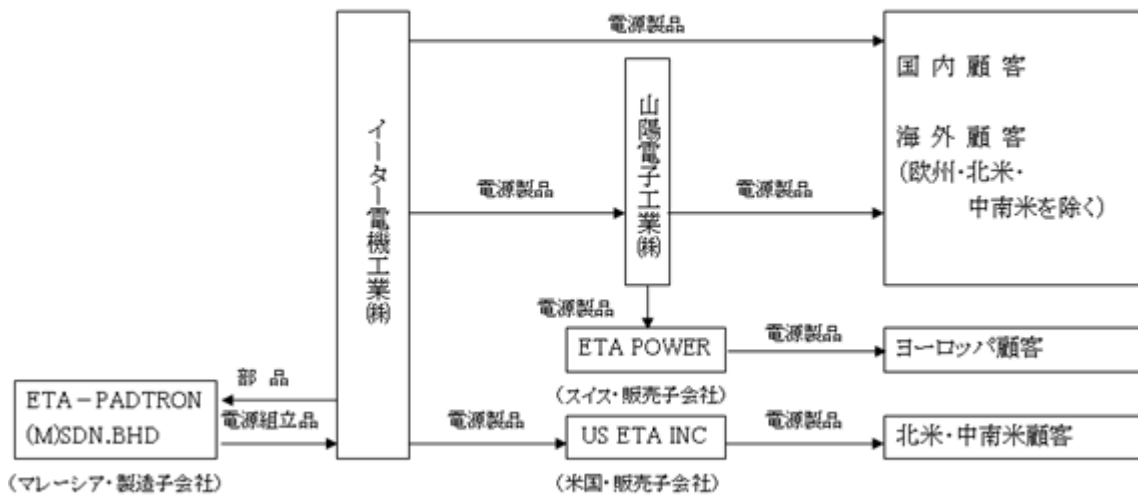
7. 損益に係る項目の印は、損失を表示しております。

2【沿革】

年月	事項
昭和54年12月	スイッチング電源の開発・製造・販売を目的として、資本金1,000万円で東京都目黒区中町一丁目3番6号にイーター電機工業株式会社を設立
昭和56年5月	50Wマルチ出力標準電源「VTCシリーズ」を開発。米国の安全規格であるUL規格取得第1号
昭和56年7月	国内最小・低価格15W単出力標準電源「VTMシリーズ」を開発
昭和57年12月	本社を東京都目黒区下目黒六丁目17番21号に移転
昭和58年10月	本社を東京都品川区北品川四丁目8番13号に移転
昭和61年7月	600W単出力標準電源「VTGシリーズ」を開発
昭和61年10月	大阪府吹田市に関西営業所（現大阪営業所）を設置
昭和62年6月	低価格、オープンタイプ標準電源「ERシリーズ」を開発
昭和63年1月	国内最小・超小型・高効率標準電源「SVシリーズ」を開発
昭和63年7月	本社を東京都大田区本羽田二丁目16番10号に移転
昭和63年11月	自動切換で世界中の商用電圧に使用できる標準電源「WRシリーズ」を開発
平成元年12月	パルス負荷対応標準電源「PLシリーズ」を開発
平成2年7月	愛知県名古屋市中区に名古屋営業所を設置
平成3年5月	スイスに販売子会社ETA POWER AG（現連結子会社）を設立
平成4年4月	東京都大田区に物流センターを開設
平成5年7月	マレーシアのPADTRON(M) SDN.BHD.と外注加工契約を締結し、海外生産を開始
平成5年12月	高調波ノイズ対策・力率改善機能内蔵標準電源「FHシリーズ」を開発
平成6年3月	ハロゲンランプ専用標準電源「HLシリーズ」を開発 オンボードタイプDC/DCコンバータ「OBシリーズ」を開発 低価格ボードタイプ標準電源「BSシリーズ」を開発
平成6年12月	米国に販売子会社U.S.ETA INC.（現連結子会社）を設立
平成8年4月	京都府京都市伏見区に京都営業所を設置
平成8年7月	品質管理の国際規格「ISO9001」認証を取得
平成8年10月	日本証券業協会に株式を店頭登録
平成9年8月	マレーシアの現地法人PADTRON(M) SDN.BHD.（現連結子会社）の増資引受けにより、同社を子会社化
平成12年3月	山陽電子工業株式会社（岡山県岡山市）（現持分法適用関連会社）の株式を取得し、同社を子会社化
平成12年10月	東京都大田区に羽田R&Dセンターを開設 PADTRON(M) SDN.BHD.をETA-PADTRON(M) SDN.BHD.と社名変更
平成12年11月	東京都八王子市に八王子営業所を設置
平成14年2月	変換効率95%以上を実現した頂点の技術「テスラコンバータ」を発表
平成16年2月	環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」認証を取得
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成19年4月	茨城県水戸市に水戸営業所を設置
平成21年12月	東京都杉並区に東京営業所を設置
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQに上場
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場
平成28年7月	当社の株式が東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）上場廃止

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社、海外3社の連結子会社で構成され、電源機器関連事業を主な事業としております。当社は、電源機器関連事業の単一セグメントであります。



(注)山陽電子工業(株)はその他の関係会社、他3社は連結子会社となります。

### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 又は被所 有割合 (%)	関係内容		
					役員の兼任		営業上の取引
					当社役員 (人)	当社 従業員	
(連結子会社) ETA POWER AG	スイス国ゾーク州	千 CHF 300	電源機器関連事業	100.0	-	-	製品の販売
U.S.ETA INC.	米国カリフォルニア州	千 USD 200	電源機器関連事業	51.0	1	-	製品の販売
ETA-PADTRON(M) SDN. BHD.	マレーシア国ペナン州	千 MYR3,814	電源機器関連事業	80.7	1	-	部品の有償支給 完成品の購入等
(その他の関係会社) 山陽電子工業株式会社	岡山県岡山市中区	千円 443,960	通信・放送、電子ソ リユーション、医療・ 環境関連事業	所有 23.7 被所有 38.1	-	1	製品の販売

(注) 1. ETA-PADTRON(M) SDN. BHD.、ETA POWER AG、U.S.ETA INC.は、特定子会社に該当いたします。

2. 上記子会社及びその他の関係会社には、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
電源機器関連事業	135 [35]

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を [ ] に外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
66[24]	46.2	13.4	3,857,827

セグメントの名称	従業員数(人)
電源機器関連事業	66 [24]

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を [ ] に外数で記載しております。

2. 平均年間給与は税込支払給与額の平均であり、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1)経営方針

当社グループは、これまで推し進めてまいりました、全社的構造改革をさらに推進し、安定的増産体制を確立してまいります。今後、電子機器市場での確固たる地歩を固めて行く為に、『動いて提案する会社 しっかりものを作る会社 新製品をスピーディーに開発し、立ち上げる会社』を会社方針に掲げ活動してまいります。

#### (2)経営戦略および経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等等

当社グループは、事業計画を策定し、達成する為に部門内に指標を設け日々活動しております。当面の利益目標としては経常利益率3%を目標としております。

#### (3)経営環境

当社グループは、企業経営の中核に「環境経営」を掲げ、自然との調和を図る「環境理念」を制定し、これを維持するためにISO14001認証を取得しております。品質方針を定めたISO9001とあわせて、社会への貢献度を高める企業集団として努力を続けることが共通課題と認識しております。

#### (4)対処すべき課題

当社グループは、前連結会計年度におきまして、62百万円の営業利益であり、営業キャッシュ・フローも99百万円のプラスでありました。

当連結会計年度におきましては20百万円の営業利益であります。これまで資金調達のほとんどを金融機関各社に依存してきたことにより、当連結会計年度末において有利子負債が1,907百万円となっております。

また、当連結会計年度において債務超過は解消されず、景気の不透明感が長引いている状況下において、将来の受注動向の先行きは、必ずしも安定的に推移する見通し感が得られず、今後計画通りの売上を実現していく上において厳しい局面も予想されます。

その結果、返済原資の確保が困難となる事実の発生、及び新規資金の調達について困難な局面も予想され、今後の資金繰りへ直接影響を及ぼすことが懸念される状況は続いております。

これらの状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループにおきましては、事業活動における直近の受注高は安定的に確保しており、収益改善に向けた施策を今後も継続して推進し、安定的な売上高の確保を維持し続けることを目指してまいります。また、財務基盤の強化を図るため、各取引金融機関に対してなお一層の協力・支援を要請してまいります。

## 2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

### (1) 新製品開発力

当社グループの将来の成長は、主に革新的な新製品の開発と販売に依存するところが大きいと予想しております。当社グループはテスラコンバータをはじめ、斬新で魅力ある新製品を継続して開発できると考えておりますが、競合他社の追従もあります。新製品の開発と販売のプロセスは、従来品に比べて、難易度がやや高いため、製品化の遅れによっては、市場の需要にタイムリーに応じることが困難になる可能性があり、新たに開発した製品又は技術が、独自の知的財産として保護されない可能性もあります。

当社グループが業界と市場の変化を十分に予測できず、魅力ある新製品を開発できない場合には、将来の成長と収益性を低下させ、業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 価格競争

当社グループの主要な事業分野である電源機器業界における競争は日々厳しさを増しており、それぞれの製品市場と地域市場において、今後も様々な競争の激化に直面するものと予想されます。当社グループは技術的に進化した高品質で高付加価値の製品を市場へ送り出してきましたが、将来においても有効に競争できるとは限りません。価格面での圧力又は有効に競争できないことによる顧客離れは、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 海外進出における潜在的リスク

当社グループは競争力のある製品製造とコスト削減のために、マレーシア・中国などの海外においても生産及び部品調達の規模を拡大してまいりました。しかし、これら事業進出した国や地域における政治や法環境の変化、労働力の不足、ストライキ、経済状況の変化など、予期せぬ事象により生産設備の管理やその他の事業の遂行に問題が生じるおそれがあり、これらの事象は業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (4) 部品仕入先への依存

当社グループと仕入先は通常、更新可能な包括契約及び個別契約を結んでおり、必要に応じてその他の措置で仕入を確保しておりますが、時に重要部品の不足が生じないという保証はありません。重要部品の仕入状況の悪化は、原材料価格の高騰による製造コストの上昇や生産の遅延につながる恐れがあり、当社グループの経営成績や財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (5) 製品の品質

当社グループは国際的品質基準であるISO9001に基づいて各種の製品を製造しております。しかし、すべての製品について欠陥が無く、将来に製造物責任賠償が発生しないという保証はありません。製造物責任賠償については保険に加入しておりますが、大規模な製造物責任賠償につながるような製品の欠陥は、当社グループの評価に重大な影響を与え、それにより売上が低下し、当社グループの業績と財務状況に悪影響が及び可能性があります。

### (6) 環境規制

鉛フリー化を含む欧州でのRoHS指令や大手ユーザーのグリーン調達など、地球環境保全に関する動きが高まっております。当社グループは環境に関する国際規格（ISO14001）の認証を取得し、地球環境の保全に積極的に取り組んでおりますが、これらの社会的要請に対応した製品をタイムリーに市場に投入できない場合や規制がより厳しくなり、これらの規制に対応するための多額な投資が余儀なくされるような場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (7) 固定資産の減損会計

固定資産の減損会計に係る会計基準の適用により、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として会計処理することになります。地価の大幅な下落や業績が利益計画より大きく下回る場合には、稼働中の固定資産についても減損の可能性がります。



(8) 継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況について

当社グループは、前連結会計年度におきまして、62百万円の営業利益であり、営業活動によるキャッシュ・フローも99百万円のプラスでありました。

当連結会計年度におきましては20百万円の営業利益であります。これまで資金調達のほとんどを金融機関各社に依存してきたことにより、当連結会計年度において有利子負債が1,907百万円となっております。

また、当連結会計年度において債務超過は解消されず、景気の不透明感が長引いている状況下において、将来の受注動向の先行きは、必ずしも安定的に推移する見通し感が得られず、今後計画通りの売上を実現していく上において厳しい局面も予想されます。

その結果、返済原資の確保が困難となる事実の発生、および新規資金の調達について困難な局面も予想され、今後の資金繰りへ直接影響を及ぼすことが懸念される状況は続いております。

これらの状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概況

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）におけるわが国経済は、政府・日銀による継続的な経済対策や金融政策の効果から企業収益や雇用情勢の改善をはじめとした景気回復基調で推移しました。一方でアメリカの政策動向や北朝鮮情勢など海外における地政学的リスクの拡大や、欧米の政策動向による海外経済の不確実性による影響など、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

この様な状況の下、当社は利益を確保いたしました。当社グループにおきましては、為替の影響等により、営業利益は確保いたしました。経常利益及び当期純利益を確保するにはいたりませんでした。

この結果、当連結会計年度における連結業績につきましては、売上高2,767百万円（前期比0.7%増）、営業利益20百万円（前期比67.3%減）、経常損失13百万円（前期8百万円の利益）、親会社株主に帰属する当期純損失11百万円（前期6百万円の損失）となりました。

セグメントの業績につきましては、「電源機器関連事業」の単一セグメントのため、記載を省略しております。

##### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度末と比較し24百万円減少しました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の営業活動により使用した資金は、6百万円（前期99百万円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失であったことと売上債権の増加等によるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の投資活動により使用した資金は、3百万円（前期22百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得によるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の財務活動により使用した資金は、16百万円（前期48百万円の使用）となりました。これは主に借入金の返済によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	前年同期比(%)
電源機器関連事業(千円)	2,260,494	97.5

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。  
 2. 上記の金額は、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
電源機器関連事業	2,804,599	103.0	291,915	114.5

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	前年同期比(%)
電源機器関連事業(千円)	2,767,636	100.7

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。  
 2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
山陽電子工業株式会社	2,476,670	90.1	2,533,660	91.5

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、連結財務諸表規則に基づいて作成され、我が国において一般に公正妥当と認められる会計基準に従っております。その内容は、「第5 経理の状況」において、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」として掲げられているとおりであります。現実には、いくつかの要因について見積りによっております。この見積りは、継続して行なわれておりますが、特に以下の項目が、当社グループの連結財務諸表における収益、資産、負債等の報告数値に影響を与えております。なお、この見積り及び判断・評価については、過去実績や状況に応じて合理的と考えられる要因等に基づき行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため実際の結果は異なる場合があります。

a 収益の認識

当社グループの売上は、通常、注文書に基づき製品が顧客に出荷された時点、又はサービスが提供された時点に計上されます。また、工事等を伴う一部の部門におきましては、顧客の検収により売上計上することとしております。

b 退職給付に係る負債及び退職給付費用

当社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の見積りに際して、簡便法を採用しております。基礎となる退職給付に係る負債は、それぞれの会社の退職金規定に基づいて見積もられた、年度末における自己都合要支給額であります。従って、原則である数理計算に基づいた退職給付に係る負債及び退職給付費用とは、差異が生じる可能性があります。

c 投資の減損

当社グループは、長期的な取引関係維持のために、各種の取引先の株式を保有しております。これらの株式の評価にあたっては、金融商品会計基準の定めるところに従っております。そして、投資価値の下落が一時的ではないと判断した場合は、減損処理を行っております。それは、時価のある有価証券については、時価が取得原価に比べて50%以上下落した場合、又は30%以上下落し且つその発行体が3期連続の赤字決算もしくは債務超過となった場合であります。また、非上場株式については、その実質価値が取得原価に比べて50%程度以上下落した場合としております。

d 繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産について、実現可能性が高いと考えられる金額へ減額するために評価性引当額を計上しております。評価性引当額の必要性を判断するに当たっては、将来の課税所得を勘案し、繰延税金資産の回収可能性が低いと判断された場合、繰延税金資産の調整額を費用として計上します。逆に、過年度において回収可能性が低いと判断されたために評価性引当額を計上された繰延税金資産が、諸条件の変化により回収可能性が高まったと判断された場合には、繰延税金資産の調整額を利益として、その判断を行った期間の利益に計上します。

## 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

### a 財政状態の分析

#### (資産の部)

当連結会計年度末における資産の額は2,643百万円と、前連結会計年度末に比べ318百万円の減少となりました。資産の減少の主な原因は、棚卸資産が225百万円減少したことによるものであります。

#### (負債の部)

当連結会計年度末における負債の額は3,183百万円と、前連結会計年度末に比べ302百万円の減少となりました。負債の減少の主な原因は、前受金が235百万円減少したことによるものであります。

#### (純資産の部)

当連結会計年度末における純資産の額はマイナス539百万円と、前連結会計年度末に比べ16百万円の減少となりました。純資産の減少の主な原因は、親会社株主に帰属する当期純損失を11百万円計上したことによるものです。

### b 経営成績の分析

#### (売上高)

当連結会計年度における売上高は2,767百万円(前期比0.7%増)となり、前連結会計年度に比べて18百万円増加しました。

#### (売上総利益)

当連結会計年度における売上総利益は546百万円(前期比16.3%減)となりました。売上総利益率は前連結会計年度比4.0ポイント減少し、19.7%となりました。これは主に材料費の高騰による原価増によるものです。

#### (営業利益)

当連結会計年度における営業利益は20百万円(前期比67.3%減)となりました。これは主に売上原価の増加によるものです。

### c キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析については、「(1) 経営成績等の状況の概況 キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

## 継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況についての対応策等について

当社グループは、前連結会計年度におきまして、62百万円の営業利益であり、営業活動によるキャッシュ・フローも99百万円のプラスでありました。

当連結会計年度におきましては20百万円の営業利益であります。これまで資金調達のほとんどを金融機関各社に依存してきたことにより、当連結会計年度において有利子負債が1,907百万円となっております。

また、当連結会計年度において債務超過は解消されず、景気の不透明感が長引いている状況下において、将来の受注動向の先行きは、必ずしも安定的に推移する見通し感が得られず、今後計画通りの売上を実現していく上において厳しい局面も予想されます。

その結果、返済原資の確保が困難となる事実の発生、および新規資金の調達について困難な局面も予想され、今後の資金繰りへ直接影響を及ぼすことが懸念される状況は続いております。

これらの状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループにおきましては、事業活動における直近の受注高は安定的に確保しており、収益改善に向けた施策を今後も継続して推進し、安定的な売上高の確保を維持し続けることを目指してまいります。また、財務基盤の強化を図るため、各取引金融機関に対してなお一層の協力・支援を要請してまいります。

しかし、これらの施策による効果の発現については、関係先との明確な合意を要する事案もあり、すべてを確定するに十分な状況には至っておらず、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

## 4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 5【研究開発活動】

当連結会計年度における研究の目的、主要課題、研究成果及び研究開発費は次のとおりであります。当連結会計年度の研究開発費の総額は106百万円となっております。

当連結会計年度も当社の開発ポリシーであります小型高効率タイプ標準電源、即ち地球環境にやさしくロス電力の非常に少ない新高効率および超高効率の標準電源の開発に全精力を傾け継続して取り組んでおります。

また、当連結会計年度におきましても新規開発に並行して、従来製品の使用部品を技術的見地から検証・再考し、部品の統合・集約等によってコストダウンを図り、さらなる収益改善に努めてまいります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループにおける電源機器関連事業での主な設備投資は、当連結会計年度においてはありません。  
 また、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却もありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備の状況は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)	
			建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)		合計 (千円)
本社工場R&Dセ ンター及び物流セ ンター (東京都大田区)	電源機器関 連事業	電源機器製 造・検査・ 出荷関連設 備	31,756	2,428	922,096 (899)	37,496	993,779	66 [24]

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品であり、建設仮勘定は含んでおりません。なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 従業員数の [ ] 内は臨時従業員数で、外数で表示しております。

##### (2) 提出会社の重要な賃借設備

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	建物面積 (㎡)	土地面積 (㎡)
本社工場 (東京都大田区)	電源機器関連事業	本社工場建物・土地	3,080	1,917

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資等の計画については、需要動向、顧客ニーズの変化その他を総合的に勘案して決定しております。具体的な個別計画は、各社が策定しておりますが、グループ内相互の協議及び情報交換により、提出会社を中心に、総合調整をはかっております。

なお、当連結会計年度末現在における特に重要な設備の新設、改修の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年6月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,523,067	13,523,067	非上場	単元株式数 1,000株 (注)
計	13,523,067	13,523,067	-	-

(注) 当社の株式を譲渡により取得するには、取締役会の承認を要する旨定款に定めております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年5月31日 (注)1	862,000	10,373,067	24,998	1,594,109	24,998	786,119
平成27年6月10日 (注)2	3,150,000	13,523,067	124,425	1,718,534	124,425	910,544

##### (注)1. 有償第三者割当

発行価格 58円  
 資本組入額 29円  
 主な割当先 山陽電子工業株

##### 2. 有償第三者割当(現物出資(デット・エクイティ・スワップ)による第三者割当増資)

発行価格 79円  
 資本組入額 39.5円  
 主な割当先 山陽電子工業株

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	1	-	13	2	8	959	983	-
所有株式数(単元)	-	1	-	5,333	109	40	8,035	13,518	5,067
所有株式数の割合(%)	-	0.01	-	39.45	0.80	0.30	59.44	100.00	-

(注) 1. 自己株式9,998株は「個人その他」に9単元及び「単元未満株式の状況」に998株を含めて記載しております。

2. 上記「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
山陽電子工業株式会社	岡山県岡山市中区長岡4-73	5,148	38.10
北川 浩	神奈川県横浜市青葉区	1,591	11.77
齋藤 千晴	広島県広島市西区	1,000	7.40
高橋 洋	神奈川県川崎市高津区	536	3.97
岡村 大造	神奈川県相模原市緑区	307	2.27
石原 博	新潟県村上市	233	1.72
早川 喜九江	滋賀県大津市	200	1.48
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB U.K. (東京都港区六本木6-10-1)	108	0.80
後藤 達夫	埼玉県戸田市	107	0.79
株式会社インカワ	神奈川県横浜市鶴見区大黒町18-24	58	0.43
西電子工業有限会社	長野県上高井郡高山村大字高井3497	58	0.43
計		9,346	69.16

(7)【議決権の状況】  
 【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 9,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,509,000	13,507	-
単元未満株式	普通株式 5,067	-	-
発行済株式総数	13,523,067	-	-
総株主の議決権	-	13,507	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」は、すべて当社保有の自己株式であります。  
 2. 「完全議決権株式(その他)」には、証券保管振替機構名義の株式2,000株が含まれております。なお、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係わる議決権の数2個が含まれておりません。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
イーター電機工業(株)	東京都大田区本羽田 2-16-10	9,000	-	9,000	0.07
計	-	9,000	-	9,000	0.07



2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	-	-
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	9,998	-	9,998	-

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は株主に対する利益還元を経営の重要課題として認識しております。安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上に努めるとともに、配当につきましても安定的な配当の継続を業績に応じて行うことを基本方針としております。

剰余金の配当回数は、期末配当の年1回とすることを基本方針としております。なお、当社は「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

しかしながら当連結会計年度末の配当につきましては、まことに遺憾ながら連結決算において特別損失を計上し、債務超過が解消されなかったことをふまえ配当を見送らせていただきます。

今後の配当につきましては、早急に債務超過の状態を解消し、早期に復配を実現すべく、利益を着実に積み上げ、利益の状況並びに財政状態等により復配が可能となりましたら、速やかに株主の皆様への利益還元を実施していくよう努めてまいります。

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	120	150	118	60	-
最低(円)	46	50	42	6	-

(注) 1. 最高・最低株価は、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

2. 第38期については、平成28年7月25日付で上場を廃止し、最終取引日である平成28年7月24日までの株価について記載しております。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

平成28年7月25日付で上場を廃止したため、記載事項はありません。

## 5【役員の状況】

男性 7名 女性 -名 (役員のうち女性の比率 -%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		高橋 洋	昭和35年12月20日生	昭和59年4月 当社入社 平成17年4月 当社営業部長 平成20年9月 当社執行役員営業部長 平成21年8月 当社執行役員生産本部長 平成21年12月 山陽電子工業株式会社取締役 当社執行役員管理本部長 平成22年1月 当社取締役 管理本部担当 平成22年6月 株式会社博多通信代表取締役社長 平成25年6月 当社取締役 平成27年6月 当社代表取締役社長(現任)	注3.	536
取締役		石原 博	昭和18年5月29日生	昭和59年6月 パルス電子株式会社設立 代表取締役(現任) 昭和62年4月 株式会社ティエムジー製作所設立 代表取締役(現任) 平成2年2月 室蘭パルス電子株式会社設立 代表取締役(現任) 平成22年6月 当社取締役(現任)	注3.	233
取締役		増田 幸一	昭和51年10月19日生	平成17年11月 当社入社 平成20年4月 当社管理部経理課課長 平成22年2月 山陽電子工業株式会社 取締役 平成22年4月 当社管理部副部長 平成24年7月 当社経営企画室室長 平成25年7月 当社管理部部長 平成27年6月 当社取締役(現任)	注4.	-
取締役		中郡 信一	昭和44年10月9日生	平成18年6月 プラスアップ株式会社 代表取締役(現任) 平成27年6月 香港信達豊集团有限公司 取締役(現任) 平成29年6月 当社取締役(現任)	注4.	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		松本 靖夫	昭和18年7月1日生	昭和50年3月 光栄商事株式会社(現光栄電子株式会社) 取締役営業部長 平成8年5月 同社代表取締役常務兼営業本部長 平成10年5月 同社代表取締役専務兼営業本部長 平成14年5月 同社代表取締役社長 平成19年5月 同社取締役会長 平成21年5月 同社相談役 平成22年6月 ソニックス株式会社入社 顧問 平成24年4月 同社 退社 平成27年6月 当社監査役(現任)	注5.	-
監査役		池田 好美	昭和25年6月22日生	昭和49年4月 福田会計事務所入所 昭和51年12月 税理士登録 昭和54年4月 アーンストアンドウィーナー(現新日本有限責任監査法人)所属 昭和59年2月 ネミック・ラムダ株式会社(現TDKラムダ株式会社) 経理部長 平成2年1月 池田会計事務所開業(現任) 平成20年6月 当社監査役(現任)	注6.	-
監査役		奥山 寛	昭和9年10月26日生	昭和32年4月 株式会社第一銀行(現株式会社みずほ銀行) 入行 昭和59年10月 同行本店営業第三部長 昭和61年10月 同行本店営業総括部長 昭和62年6月 日東化学工業株式会社入社 常勤監査役 平成10年7月 三菱レイヨン株式会社(日東化学工業株式会社と合併) 顧問 平成11年6月 同社退職 平成12年6月 当社常勤監査役 平成24年6月 当社常勤監査役退任 平成29年6月 当社監査役(現任)	注6.	-
計						769

- (注) 1. 取締役石原 博及び中郡 信一は、社外取締役であります。  
 2. 監査役松本 靖夫、池田 好美及び奥山 寛は、社外監査役であります。  
 3. 平成30年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から2年  
 4. 平成29年6月16日開催の定時株主総会の終結の時から2年  
 5. 平成28年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年  
 6. 平成29年6月16日開催の定時株主総会の終結の時から4年

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

##### ・企業統治の体制の概要

「取締役会」は、社内取締役2名、社外取締役2名（平成30年6月29日現在）で構成されております。会社の意思決定機関として、迅速かつ確かな判断を下せるよう、定例的な開催（1ヵ月に1回以上の開催）のほか必要に応じて随時開催し、経営の基本方針や法令で定められた事項及びその他経営に関する事項を審議・決定しております。さらに、取締役会のメンバーに各部門長を加えた「経営会議」を毎月定例的に開催し、経営情報の共有化を図り、リスク管理とコンプライアンスの確保に努めております。

当社は、監査役会設置会社であり、「監査役会」は、常勤監査役1名と監査役2名で構成されており3名全員が社外監査役であります。監査役は取締役会に加え、経営会議等にも出席しており、取締役の業務執行を客観的な立場から常に監査できる体制になっております。

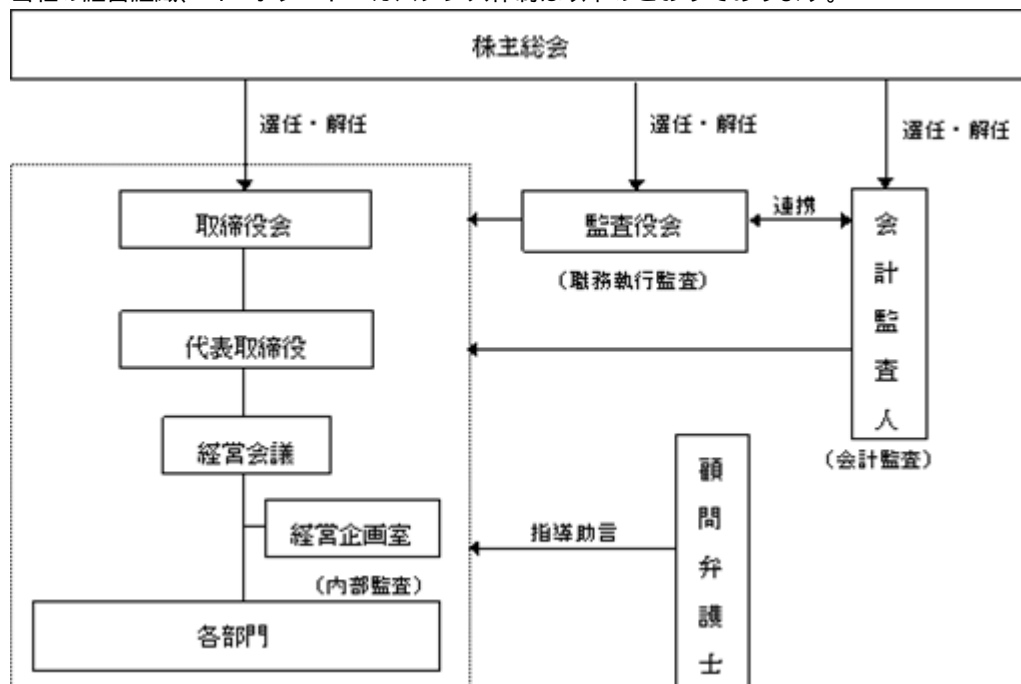
##### ・企業統治の体制を採用する理由

取締役会における各取締役の職務執行監督については、社外監査役がその役割を果たしており、経営監視機能の面においては社外取締役がその役割を果たしております。

##### ・内部統制システムの整備の状況

会社法第362条第4項第6号及び会社法施行規則第100条に定める、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合するための体制、その他株式会社の業務の適正性を確保するための体制として、「内部統制システムの整備」を取締役に決議し、コーポレート・ガバナンスの一層の強化とコンプライアンスの実現に努めております。

当社の経営組織、コーポレート・ガバナンス体制は以下のとおりであります。



##### ・リスク管理体制の整備の状況

当社では事業活動で生じる様々なリスクに対応するため、必要に応じて取締役会に報告しております。また、対外的なリスクは顧問弁護士と十分協議の上、対応しております。

##### ・子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社グループにおいては「関係会社管理規程」を整備し、グループ各社の経営状況を把握し、適切な連絡経営体制を構築する。また、必要に応じて、親会社の内部監査部門が内部監査規程に準じて、子会社の監査を実施する。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査については、会社規模及び実態を総合的に判断し、独立した部門を設けず、経営企画室がその役割を担っております。監査役会と連携をとりながら年度計画に基づき各部門に対して業務監査を実施し、業務の改善指導を適宜行っております。その結果については取締役会及び監査役会に都度報告しております。監査役会による監査は、社外監査役として独立性・透明性を保ちながら、取締役会への出席のほか、個別にも各取締役の業務執行状況について監視、監督を行っております。また、会計監査人との連携を緊密にし、会計監査の中で明らかになった指摘事項を速やかに経営に反映させるように努めております。

なお、監査役池田好美氏は税理士の資格を有し、他社において経理責任者を経験しております。

社外取締役及び社外監査役

社外取締役石原博氏は、パルス電子株式会社の代表取締役であります。当社と同社とは取引関係がありますが取引金額は少額であります。

社外取締役中郡信一氏は、プラスアップ株式会社の代表取締役であります。当社と同社とは取引関係はありません。

社外監査役3名は当社との間に人的関係、資本的又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社は特別の利害関係の無い社外取締役及び社外監査役を選任し、業務執行者から独立した立場で、職務執行及び経営の監督監視機能の強化を図っております。

当社は社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準等は特段設けておりません。選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

なお、社外取締役及び社外監査役は、取締役会、監査役会等の重要な会議体に参加し必要に応じて意見を述べるほか、取締役等に業務執行の状況の報告を求め、各監査報告等の重要書類を閲覧する等の活動を行っております。

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	役員退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	14,190	14,190	-	-	-	3
監査役 (社外監査役を除く。)	-	-	-	-	-	-
社外役員	12,090	12,090	-	-	-	6

ロ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役、監査役に対する報酬限度額は、株主総会における決議により、取締役報酬年額150百万円以内、監査役報酬年額30百万円以内と定められておりますが、取締役、監査役に対する報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

7 銘柄 30,107千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)滋賀銀行	15,000	8,565	円滑な取引を維持するため
サンワテクノス(株)	3,960	4,458	円滑な取引を維持するため
加賀電子(株)	1,155	2,282	円滑な取引を維持するため
佐鳥電機(株)	1,900	1,540	円滑な取引を維持するため

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)滋賀銀行	15,000	8,040	円滑な取引を維持するため
サンワテクノス(株)	3,960	7,488	円滑な取引を維持するため
加賀電子(株)	1,155	3,186	円滑な取引を維持するため
佐鳥電機(株)	1,900	2,080	円滑な取引を維持するため

会計監査の状況

会計監査については、赤坂・海生公認会計士共同事務所と監査契約を締結し、会社法及び金融商品取引法に基づく監査を受けております。

当事業年度において業務を執行した公認会計士は赤坂満秋氏、海生裕明氏の2名。監査業務に係る補助者は、公認会計士1名、その他1名となっております。

なお、当社は、会社法第427条第1項の規定により、会計監査人との間に、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。また、当該契約に基づく損害賠償の限度額は、法令が規定する額の範囲とする旨を定款に定めております。当社と会計監査人赤坂・海生公認会計士共同事務所は責任限定契約を締結しております。

取締役の定数

当社の取締役は、3名以上10名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

自己株式の取得決議要件

当社は、機動的な資本政策を遂行することを目的として、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行なう旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

責任免除及び責任限定契約

当社は、取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）が、各々の職務に応じた役割を十分に全うできるよう、会社法第426条第1項の規定により、同法第423条第1項の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

また、当社は、同様の目的で、会社法第427条第1項の規定により、社外監査役との間に、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。また、当該契約に基づく損害賠償の限度額は、法令が規定する額の範囲とする旨を定款に定めております。

また、平成22年6月29日開催の第31回定時株主総会において、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役との間に、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨の定款変更の決議を行っております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	15	-	12	-
連結子会社	-	-	-	-
計	15	-	12	-

(注) 監査報酬の内訳は以下のとおりであります。

(前連結会計年度)

赤坂・海生公認会計士共同事務所・・・提出会社15百万円

(当連結会計年度)

赤坂・海生公認会計士共同事務所・・・提出会社12百万円

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。



## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。  
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表について赤坂・海生公認会計士共同事務所による監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更について適格に対応するため、監査公認会計士等との綿密な連携や情報共有及び各種セミナーの参加等を行っております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	81,561	57,290
受取手形及び売掛金	67,917	53,086
商品及び製品	378,801	288,560
仕掛品	135,815	133,145
原材料及び貯蔵品	478,962	346,364
未収入金	83,508	42,793
その他	48,859	37,214
貸倒引当金	3,657	3,548
流動資産合計	1,271,769	954,908
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	1,418,111	1,420,770
減価償却累計額	355,305	359,881
建物及び構築物(純額)	62,805	60,888
機械装置及び運搬具	17,115	18,002
減価償却累計額	12,190	13,868
機械装置及び運搬具(純額)	4,925	4,134
工具、器具及び備品	833,083	836,312
減価償却累計額	789,256	792,306
工具、器具及び備品(純額)	43,827	44,006
土地	1,947,716	1,949,396
建設仮勘定	673	673
有形固定資産合計	1,059,947	1,059,100
<b>無形固定資産</b>		
のれん	19,318	17,562
ソフトウェア	4,711	3,488
その他	52,895	52,895
無形固定資産合計	76,925	73,946
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,514,923	1,518,574
長期貸付金	52,599	52,599
その他	55,723	54,156
貸倒引当金	69,410	69,410
投資その他の資産合計	553,834	555,919
<b>固定資産合計</b>	<b>1,690,708</b>	<b>1,688,965</b>
<b>資産合計</b>	<b>2,962,477</b>	<b>2,643,873</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	366,864	339,403
短期借入金	1,456,879	1,437,091
1年内返済予定の長期借入金	1,571,093	1,592,495
未払法人税等	14,426	20,574
未払金	99,648	28,018
未払費用	65,586	89,994
前受金	729,106	493,845
その他	55,486	94,107
流動負債合計	3,359,093	3,095,532
固定負債		
長期借入金	1,21,402	-
役員退職慰労引当金	1,048	1,048
退職給付に係る負債	104,043	84,574
その他	569	2,403
固定負債合計	127,063	88,026
負債合計	3,486,157	3,183,558
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,718,534	1,718,534
資本剰余金	913,396	913,396
利益剰余金	3,198,049	3,210,023
自己株式	23,945	23,945
株主資本合計	590,064	602,037
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,921	8,470
為替換算調整勘定	40,828	40,779
その他の包括利益累計額合計	46,750	49,249
非支配株主持分	19,634	13,102
純資産合計	523,680	539,685
負債純資産合計	2,962,477	2,643,873

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	2,749,028	2,767,636
売上原価	2,095,127	2,220,738
売上総利益	653,900	546,897
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	1,663	1,533
広告宣伝費	923	2,760
役員社員給与手当等	218,282	205,361
退職給付費用	5,166	3,369
減価償却費	5,820	5,712
支払手数料	91,304	75,323
のれん償却額	1,755	1,755
その他	266,860	230,766
販売費及び一般管理費合計	591,777	526,583
営業利益	62,123	20,314
営業外収益		
受取利息	63	0
受取配当金	5,129	2,295
業務受託料	21,646	10,172
為替差益	-	4,819
その他	2,612	12,111
営業外収益合計	29,451	29,399
営業外費用		
支払利息	58,662	58,384
為替差損	16,192	-
手形売却損	2,566	1,026
貸倒引当金繰入額	2,488	-
支払手数料	2,050	-
その他	1,177	3,308
営業外費用合計	83,138	62,719
経常利益又は経常損失( )	8,436	13,005
特別損失		
投資有価証券評価損	4,620	-
特別損失合計	4,620	-
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	3,816	13,005
法人税、住民税及び事業税	6,498	6,870
法人税等調整額	3,263	103
法人税等合計	3,235	6,767
当期純利益又は当期純損失( )	581	19,772
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失( )	6,700	7,799
親会社株主に帰属する当期純損失( )	6,118	11,973

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益又は当期純損失( )	581	19,772
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,840	2,548
為替換算調整勘定	8,917	2,831
その他の包括利益合計	6,077	283
包括利益	5,496	20,055
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	31	205
非支配株主に係る包括利益	5,527	20,260

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,718,534	913,396	2,952,010	23,932	344,011
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純損失( )			6,118		6,118
持分法の適用範囲の変動			239,921		239,921
自己株式の取得				13	13
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	246,039	13	246,053
当期末残高	1,718,534	913,396	3,198,049	23,945	590,064

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	3,081	39,914	42,996	16,486	284,528
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純損失( )					6,118
持分法の適用範囲の変動					239,921
自己株式の取得					13
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,840	913	3,753	3,147	6,901
当期変動額合計	2,840	913	3,753	3,147	239,151
当期末残高	5,921	40,828	46,750	19,634	523,680

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,718,534	913,396	3,198,049	23,945	590,064
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純損失( )			11,973		11,973
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	11,973	-	11,973
当期末残高	1,718,534	913,396	3,210,023	23,945	602,037

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	5,921	40,828	46,750	19,634	523,680
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純損失( )					11,973
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,548	12,765	10,216	6,184	4,032
当期変動額合計	2,548	12,765	10,216	6,184	16,005
当期末残高	8,470	28,062	36,533	25,819	539,685

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	3,816	13,005
減価償却費	10,970	8,406
のれん償却額	1,755	1,755
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	427	19,468
貸倒引当金の増減額( は減少)	7,069	92
受取利息及び受取配当金	5,193	2,363
支払利息	58,662	58,316
為替差損益( は益)	6,145	55
投資有価証券評価損益( は益)	4,620	-
売上債権の増減額( は増加)	17,029	56,029
たな卸資産の増減額( は増加)	188,416	204,743
未払金の増減額( は減少)	33,060	71,630
前受金の増減額( は減少)	86,538	235,260
預り金の増減額( は減少)	3,303	27,777
未収入金の増減額( は増加)	15,260	40,715
仕入債務の増減額( は減少)	194,230	59,379
その他	402	48,685
小計	156,943	51,985
利息及び配当金の受取額	5,320	2,942
利息の支払額	58,794	55,187
法人税等の支払額	4,370	6,445
営業活動によるキャッシュ・フロー	99,098	6,704
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	20,944	2,670
貸付金の回収による収入	360	-
敷金及び保証金の差入による支出	1,700	500
投資活動によるキャッシュ・フロー	22,284	3,170
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	34,888	18,188
長期借入金の返済による支出	13,807	-
自己株式の取得による支出	13	-
長期未払金の増減額( は減少)	171	1,829
財務活動によるキャッシュ・フロー	48,881	16,358
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,770	1,963
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	25,162	24,270
現金及び現金同等物の期首残高	56,398	81,561
現金及び現金同等物の期末残高	81,561	57,290



【注記事項】

( 継続企業の前提に関する事項 )

当社グループは、前連結会計年度におきまして、62,123千円の営業利益であり、営業キャッシュ・フローも99,098千円のプラスでありました。

当連結会計年度におきましては20,314千円の営業利益であり、営業キャッシュ・フローは6,704千円のマイナスとなりました。その結果当連結会計年度末において539,685千円の債務超過になっております。

またこれまで資金調達のほとんどを金融機関各社に依存してきたことにより、当連結会計年度末において有利子負債が1,907,979千円となっております。

景気の不透明感が長引いている状況下において、将来の受注動向の先行きは、必ずしも安定的に推移する見通し感が得られず、今後計画通りの売上利益を実現していく上において厳しい局面も予想されます。

その結果、返済原資の確保が困難となる事象の発生、及び新規資金の調達について困難な局面も予想され、今後の資金繰りへ直接影響を及ぼすことが懸念される状況は続いております。

これらの状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループにおきましては、事業活動における直近の受注高は安定的に確保しており、収益改善に向けた施策を今後も継続して推進し、安定的な売上高の確保を維持し続けることを目指してまいります。また、財務基盤の強化を図るため、各取引金融機関に対してなお一層の協力・支援を要請してまいります。

しかし、これらの施策による効果の発現については、関係先との明確な合意を要する事案もあり、すべてを確定するに十分な状況には至っておらず、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を連結財務諸表には反映しておりません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社の数 3社  
連結子会社の名称 ETA POWER AG  
U.S.ETA INC.  
ETA-PADTRON(M)SDN.BHD.  
(2) 非連結子会社の名称等 ありません。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 - 社

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、平成29年12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、平成30年1月1日から連結決算日平成30年3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算出しております。)

時価のないもの

総平均法による原価法によっております。

たな卸資産

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～31年

その他 2～12年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に見積った回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当連結会計年度の負担額を計上しておりますが、在外連結子会社では賞与支給制度がないため、引当金を設定しておりません。

役員退職慰労引当金

平成23年3月31日をもって役員退職慰労金制度を廃止しております。また、過年度に計上したものに付きましては一部引当金を設定しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

なお、在外連結子会社では退職金支給制度がないため、退職給付に係る負債を設定しておりません。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、20年間で均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引出し可能な預金及び当座借越（負の現金同等物）からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「未払金の増減額」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた 32,657千円は、「未払金の増減額」 33,060千円、「その他」402千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物及び構築物	25,053千円	25,053千円
土地	922,096	922,096
投資有価証券	479,267	482,104
計	1,426,417	1,429,254

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	912,274千円	912,274千円
1年内返済予定の長期借入金	206,883	228,285
長期借入金	21,402	-
計	1,140,560	1,140,560

2 受取手形割引高・受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形割引高	74,558千円	28,391千円
受取手形裏書譲渡高	3,225	394

3 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当連結会計年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	- 千円	28,391千円
支払手形	-	3,550

4 当社グループにおいては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額	10,440千円	11,125千円
貸出実行残高	-	5,744
差引額	10,440	5,381

(連結損益計算書関係)

一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
	115,912千円	106,268千円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	3,860千円	3,650千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	3,860	3,650
税効果額	1,020	1,102
その他有価証券評価差額金	2,840	2,548
為替換算調整勘定：		
当期発生額	8,917	2,831
その他の包括利益合計	6,077	283

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成28年 4月 1日 至平成29年 3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	13,523,067	-	-	13,523,067
合計	13,523,067	-	-	13,523,067
自己株式				
普通株式(注)	8,841	1,157	-	9,998
合計	8,841	1,157	-	9,998

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1,157株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成29年 4月 1日 至平成30年 3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	13,523,067	-	-	13,523,067
合計	13,523,067	-	-	13,523,067
自己株式				
普通株式	9,998	-	-	9,998
合計	9,998	-	-	9,998

2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
現金及び預金勘定	81,561千円	57,290千円
現金及び現金同等物	81,561	57,290

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

電源機器関連事業における生産設備(機械装置及び運搬具)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計方針に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1.金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、銀行等金融機関及び法人からの短期借入及び長期借入により資金を調達しております。資金運用については特に行っておりません。

(2)金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金並びに取引先企業に対する長期貸付金は、顧客の信用リスクに晒されております。当社グループは与信管理等を定めた社内規定に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行っており、また営業部門において各種調査機関等を活用してモニタリングを行っております。

投資有価証券は、主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが半年以内の支払期日であります。

借入金には主に運転資金資金の調達を目的としたものであり、返済日は最長で1年以内であります。

(3)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2.金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	81,561	81,561	-
(2)受取手形及び売掛金	67,917	67,917	-
(3)未収入金	83,508	83,508	-
(4)投資有価証券	16,847	16,847	-
(5)長期貸付金	52,599		
貸倒引当金(1)	52,599		
	-	-	-
資産計	249,834	249,834	-
(1)支払手形及び買掛金	366,864	366,864	-
(2)短期借入金	1,456,879	1,456,879	-
(3)1年内返済予定の長期借入金	571,093	571,093	-
(4)未払金	99,648	99,648	-
(5)長期借入金	21,402	21,014	388
負債計	2,515,889	2,515,500	388

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	57,290	57,290	-
(2) 受取手形及び売掛金	53,086	53,086	-
(3) 未収入金	42,793	42,793	-
(4) 投資有価証券	20,795	20,795	-
(5) 長期貸付金	52,599		
貸倒引当金( 1)	52,599		
	-	-	-
資産計	173,966	173,966	-
(1) 支払手形及び買掛金	339,403	339,403	-
(2) 短期借入金	1,437,091	1,437,091	-
(3) 1年内返済予定の長期借入金	592,495	592,495	-
(4) 未払金	28,018	28,018	-
負債計	2,397,010	2,397,010	-

1 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 未収入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券の時価は、取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(5) 長期貸付金

長期貸付金の時価の算定は、貸倒引当金控除後の価額を時価としております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 1年内返済予定の長期借入金、(4) 未払金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非上場株式	498,076	497,778

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
 前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	81,561	-	-	-
受取手形及び売掛金	67,917	-	-	-
未収入金	83,508	-	-	-
合計	232,987	-	-	-

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	57,290	-	-	-
受取手形及び売掛金	53,086	-	-	-
未収入金	42,793	-	-	-
合計	153,171	-	-	-

4. 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額  
 前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,456,879	-	-	-	-	-
長期借入金	571,093	21,402	-	-	-	-
合計	2,027,973	21,402	-	-	-	-

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,437,091	-	-	-	-	-
長期借入金	592,495	-	-	-	-	-
合計	2,029,587	-	-	-	-	-



(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	16,847	10,972	5,874
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	16,847	10,972	5,874
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		16,847	10,972	5,874

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 498,076千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	20,795	10,972	9,822
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	20,795	10,972	9,822
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		20,795	10,972	9,822

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 497,778千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

時価のある有価証券の減損処理にあたっては、取得原価に比べて時価が50%以上下落している場合、又は、30%程度以上下落し、かつ、その発行体が3期連続の赤字決算もしくは債務超過となった場合に減損処理をすることとしております。

また、非上場株式については、その実質価額が取得原価に比べて50%程度以上下落した場合に減損処理をすることとしております。

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度及び退職一時金制度を採用しております。

当社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	104,470千円	104,043千円
退職給付費用	10,004	6,694
退職給付の支払額	6,783	26,163
退職給付に係る負債の取崩額	3,648	-
退職給付に係る負債の期末残高	104,043	84,574

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成29年3月31日)	(平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	186,974千円	174,877千円
年金資産	82,930	90,302
	104,043	84,574
非積立型制度の退職給付債務	-	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	104,043	84,574
退職給付に係る負債	104,043	84,574
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	104,043	84,574

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度10,004千円 当連結会計年度6,694千円

（ストック・オプション等関係）

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
税務上の繰越欠損金	1,252,384千円	1,249,845千円
その他	11,041	15,101
	1,263,425	1,264,946
繰延税金資産(固定)		
退職給付に係る負債繰入限度超過額	32,107	26,099
貸倒引当金繰入限度超過額	32,161	32,161
その他	16,118	15,922
	80,388	74,183
繰延税金資産計	1,343,814	1,339,130
評価性引当額	1,343,814	1,339,130
繰延税金資産合計	-	-
繰延税金負債(流動)		
その他	2,976	2,964
繰延税金負債(固定)		
その他	5,398	4,399
繰延税金負債合計	2,422	1,435
繰延税金資産(負債)の純額	2,422	1,435

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.86%	税金等調整前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。
(調整)		
評価性引当金の増減	84.37	
住民税均等割額	171.18	
交際費等永久に損金に算入されない項目	53.73	
在外子会社の適用税率の差異	323.88	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	16.26	

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

当社は、本社の賃借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しておりますが、当該資産除去債務に関しては資産除去債務の負債計上に代えて賃借契約に関する保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

省令別表耐用年数表から、完成時から入居日までの除いた期間を使用年数とし、過去において類似に発生した原状回復費用の実績に基づき、1㎡あたりの原状回復費用を求め、対象物件の面積に乗じて算定しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
期首残高	6,588千円	6,172千円
償却による減少額	416	416
期末残高	6,172	5,756

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「電源機器関連事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	欧州	北米	その他	合計
2,484,730	37,813	196,801	29,682	2,749,028

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 欧州.....ヨーロッパ全域

(2) 北米.....米国、カナダ

(3) その他.....アジア、オセアニア他

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
山陽電子工業(株)	2,476,670	電源機器関連事業

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	欧州	北米	その他	合計
2,568,924	17,076	165,361	16,273	2,767,636

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 欧州.....ヨーロッパ全域

(2) 北米.....米国、カナダ

(3) その他.....アジア、オセアニア他

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
山陽電子工業(株)	2,533,660	電源機器関連事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

(単位：千円)

	電源機器関連事業
当期償却額	1,755
当期末残高	19,318

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

(単位：千円)

	電源機器関連事業
当期償却額	1,755
当期末残高	17,562

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 (会社等)	山陽電子工業株式会社	岡山県 岡山市中区	443,960	通信・放送、 電子ソリューション、 医療・環境関連 事業	直接 23.7 (直接 38.1)	役員の兼任	製品の販売 (注) 2	2,476,670	前受金 短期借入金	729,106 180,000
役員及びその 近親者が 議決権の過 半数を所有 している会 社等(当該 会社等の子 会社を含 む。)	(有)エスワイ ゼット	神奈川県横 浜市青葉区	3,000	損害保険代 理業	-	-	担保の引受 (注) 1	352,898	-	-

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 (会社等)	山陽電子工業株式会社	岡山県 岡山市中区	443,960	通信・放送、 電子ソリューション、 医療・環境関連 事業	直接 23.7 (直接 38.1)	役員の兼任	製品の販売 (注) 2	2,533,660	前受金 短期借入金	488,784 150,000

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等  
 前連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	北川 浩	-	-	-	(直接 11.8)	-	債務被保証 (注)3	289,033	-	-

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	北川 浩	-	-	-	(直接 11.8)	-	債務被保証 (注)3	289,033	-	-

- (注) 1. 当社の銀行借入に対して、預金の担保提供を受けております。  
 2. 関連会社への当社製品販売については、市場実勢を勘案して合理的に取引条件を決定しております。  
 3. 当社は銀行借入に関し、北川浩に債務保証を受けております。保証料の支払は行っておりません。  
 4. 北川浩は平成27年7月10日に役員を退任しましたが、主要株主である為、関連当事者に該当して  
 おります。  
 5. 当社は山陽電子工業株式会社からの借入金に対して利息の支払を行っておりません。  
 6. 上記(ア)～(ウ)の金額のうち取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等  
 が含まれております。

2. 重要な関連会社に関する注記

重要な関連会社の要約財務情報

前連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

該当事項はありません。

## ( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	40円21銭	40円91銭
1株当たり当期純損失金額( )	0円45銭	0円89銭

(注) 1. 前連結会計年度及び当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純損失( ) (千円)	6,118	11,973
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純 損失( )(千円)	6,118	11,973
期中平均株式数(株)	13,513,331	13,513,069
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額の算定に含めな かった潜在株式の概要		

## ( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。



【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,456,879	1,437,091	2.660	-
1年以内に返済予定の長期借入金	571,093	592,495	3.068	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	21,402	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	2,049,375	2,029,587	-	-

(注) 1. 平均利率は、期末残高の加重平均に基づき算出しております。

2. 当社は山陽電子工業株式会社からの短期借入金150,000千円に対して利息の支払を行っておりません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

( 2 ) 【その他】

該当事項はありません。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	7,665	7,304
売掛金	2,974	2,578
商品及び製品	303,401	197,874
仕掛品	111,933	112,483
原材料及び貯蔵品	275,526	230,264
前渡金	2,106,498	2,74,003
前払費用	11,199	5,458
短期貸付金	188	188
未収入金	2,350,808	2,241,082
立替金	2,15,176	2,9,947
その他	4,150	1,757
貸倒引当金	2,806	2,806
<b>流動資産合計</b>	<b>1,193,489</b>	<b>885,424</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1,34,754	1,31,866
構築物	135	135
機械及び装置	2,775	2,428
車両運搬具	33	33
工具、器具及び備品	38,944	37,463
土地	1,922,096	1,922,096
建設仮勘定	673	673
<b>有形固定資産合計</b>	<b>999,413</b>	<b>994,697</b>
<b>無形固定資産</b>		
電話加入権	3,369	3,369
借地権	14,846	14,846
ソフトウェア	4,711	3,488
ソフトウェア仮勘定	34,680	34,680
<b>無形固定資産合計</b>	<b>57,607</b>	<b>56,383</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,26,456	1,30,107
関係会社株式	173,010	173,010
その他の関係会社有価証券	1,488,466	1,488,466
出資金	220	220
長期貸付金	2,88,061	2,88,061
破産更生債権等	1,371	1,371
長期前払費用	723	-
差入保証金	30,476	30,679
ゴルフ会員権	15,940	15,940
その他	10	10
投資損失引当金	65,699	65,699
貸倒引当金	104,873	104,873
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>654,164</b>	<b>657,295</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>1,711,185</b>	<b>1,708,375</b>
<b>資産合計</b>	<b>2,904,674</b>	<b>2,593,800</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	284,790	5 231,998
買掛金	2 141,100	2 174,282
短期借入金	1 1,397,420	1 1,367,420
1年内返済予定の長期借入金	1 571,093	1 592,495
未払金	90,778	19,054
未払費用	43,762	63,708
未払法人税等	14,426	20,547
前受金	2 729,106	488,784
預り金	44,781	72,558
その他	4,508	16,374
流動負債合計	3,321,768	3,047,225
固定負債		
長期借入金	1 21,402	-
繰延税金負債	1,991	3,094
退職給付引当金	104,043	84,574
役員退職慰労引当金	1,048	1,048
受入保証金	500	500
固定負債合計	128,986	89,217
負債合計	3,450,754	3,136,442
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,718,534	1,718,534
資本剰余金		
資本準備金	910,544	910,544
資本剰余金合計	910,544	910,544
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	3,177,543	3,176,654
利益剰余金合計	3,177,543	3,176,654
自己株式	2,077	2,077
株主資本合計	550,542	549,653
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,462	7,010
評価・換算差額等合計	4,462	7,010
純資産合計	546,079	542,642
負債純資産合計	2,904,674	2,593,800

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高		
製品売上高	2,271,347	2,209,806
商品売上高	243,666	376,233
売上高合計	2,515,013	2,586,040
売上原価		
製品売上原価	1,924,692	1,920,548
商品売上原価	148,842	241,667
売上原価合計	2,073,534	2,162,216
売上総利益	441,479	423,824
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	14,958	11,997
広告宣伝費	482	1,805
役員報酬	35,280	24,840
給与手当	123,286	120,850
退職給付費用	5,166	3,369
法定福利費	26,625	24,922
通信交通費	33,104	30,753
減価償却費	4,197	4,049
システム費	1,271	1,179
賃借料	22,271	22,594
支払手数料	82,774	58,701
その他	82,537	69,622
販売費及び一般管理費合計	431,955	374,685
営業利益	9,523	49,139

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
<b>営業外収益</b>		
受取利息	63	0
受取配当金	5,129	2,295
為替差益	730	-
業務受託料	21,646	10,172
雑収入	2,612	10,822
<b>営業外収益合計</b>	<b>30,182</b>	<b>23,290</b>
<b>営業外費用</b>		
支払利息	55,886	54,967
為替差損	-	5,427
手形売却損	2,566	1,026
貸倒引当金繰入額	8,689	-
支払手数料	2,050	-
雑損失	1,177	3,161
<b>営業外費用合計</b>	<b>70,370</b>	<b>64,582</b>
経常利益又は経常損失( )	30,664	7,847
<b>特別損失</b>		
投資有価証券評価損	4,620	-
<b>特別損失合計</b>	<b>4,620</b>	<b>-</b>
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )	35,284	7,847
法人税、住民税及び事業税	6,533	6,958
法人税等合計	6,533	6,958
<b>当期純利益又は当期純損失( )</b>	<b>41,817</b>	<b>888</b>

## 製造原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		1,123,710	63.2	1,181,226	65.1
外注加工費		182,943	10.3	197,113	10.9
労務費		295,196	16.6	266,073	14.6
経費		175,790	9.9	169,957	9.4
当期総製造費用		1,777,641	100.0	1,814,370	100.0
期首仕掛品たな卸高		100,726		111,933	
合計		1,878,367		1,926,303	
期末仕掛品たな卸高		111,933		112,483	
当期製品製造原価		1,766,434		1,813,820	

## 原価計算の方法

原価計算の方法は、型式別標準原価計算によっております。

原価差額は、法人税法の定めるところにより、期末において売上原価、仕掛品及び製品勘定で調整しております。

(注) . 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
減価償却費(千円)	4,375	1,891
支払手数料(千円)	4,546	6,756
賃借料(千円)	51,012	51,012

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	1,718,534	910,544	910,544	3,135,725	3,135,725	2,063	508,710
当期変動額							
当期純損失（ ）				41,817	41,817		41,817
自己株式の取得						13	13
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	41,817	41,817	13	41,831
当期末残高	1,718,534	910,544	910,544	3,177,543	3,177,543	2,077	550,542

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,621	1,621	507,088
当期変動額			
当期純損失（ ）			41,817
自己株式の取得			13
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,840	2,840	2,840
当期変動額合計	2,840	2,840	38,991
当期末残高	4,462	4,462	546,079



当事業年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	1,718,534	910,544	910,544	3,177,543	3,177,543	2,077	550,542
当期変動額							
当期純利益				888	888		888
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	888	888	-	888
当期末残高	1,718,534	910,544	910,544	3,176,654	3,176,654	2,077	549,653

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	4,462	4,462	546,079
当期変動額			
当期純利益			888
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,548	2,548	2,548
当期変動額合計	2,548	2,548	3,437
当期末残高	7,010	7,010	542,642

【注記事項】

（継続企業の前提に関する事項）

当社は、前事業年度におきまして、9,523千円の営業利益を計上し、当事業年度におきましても49,139千円の営業利益を確保し、営業活動によるキャッシュ・フローもプラスでありましたが、当事業年度末において542,642千円の債務超過となっております。

またこれまで資金調達のほとんどを金融機関各社に依存してきたことにより、当事業年度末において有利子負債が1,838,307千円となっております。

景気の不透明感が長引いている状況下において、将来の受注動向の先行きは、必ずしも安定的に推移する見通し感が得られず、今後計画通りの売上利益を実現していく上において厳しい局面も予想されます。

その結果、返済原資の確保が困難となる事象の発生、及び新規資金の調達について困難な局面も予想され、今後の資金繰りへ直接影響を及ぼすことが懸念される状況は続いております。

これらの状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社におきましては、事業活動における直近の受注高は安定的に確保しており、収益改善に向けた施策を今後も継続して推進し、安定的な売上高の確保を維持し続けることを目指してまいります。また、財務基盤の強化を図るため、各取引金融機関に対してなお一層の協力・支援を要請してまいります。

しかし、これらの施策による効果の発現については、関係先との明確な合意を要する事案もあり、すべてを確定するに十分な状況には至っておらず、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を財務諸表には反映しておりません。

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

総平均法による原価法によっております。

その他有価証券

・時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算出しております。)

・時価のないもの

総平均法による原価法によっております。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品、製品、原材料、仕掛品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

主な耐用年数	建物	3～31年
	その他	2～12年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に見積った回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当期における負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

当社は、退職給付債務及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 役員退職慰労引当金

平成23年3月31日をもって役員退職慰労金制度を廃止しております。また、過年度に計上したものににつきましては一部引当金を設定しております。

(5) 投資損失引当金

関係会社への投資等に係る損失に備えるため、関係会社の業績及び状況等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(2) 外貨建資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産及び担保に係る債務  
 担保に供している資産

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	25,053千円	25,053千円
土地	922,096	922,096
投資有価証券	14,730	17,567
その他の関係会社有価証券	464,537	464,537
計	1,426,417	1,429,254

担保に係る債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	912,274千円	912,274千円
1年内返済予定の長期借入金	206,883	228,285
長期借入金	21,402	-
計	1,140,560	1,140,560

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	403,485千円	257,961千円
短期金銭債務	823,417	88,024
長期金銭債権	35,462	35,462

3 保証債務

次の関係会社について、金融機関からの借入債務に対し、保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
U.S.ETA INC.	40,134千円	34,946千円

4 受取手形割引高・受取手形裏書譲渡高

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形割引高	74,558千円	28,391千円
受取手形裏書譲渡高	3,225千円	394千円

5 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、当事業年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形	- 千円	28,391千円
支払手形	-	3,550

(損益計算書関係)

関係会社との取引

	前事業年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当事業年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	2,514,025千円	2,595,791千円
仕入高	629,305	635,612
営業取引以外の取引による取引高	4,745	-

(有価証券関係)

前事業年度(平成29年3月31日)

子会社株式及びその他の関係会社有価証券(貸借対照表計上額 子会社株式173,010千円、その他の関係会社有価証券488,466千円)は、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成30年3月31日)

子会社株式及びその他の関係会社有価証券(貸借対照表計上額 子会社株式173,010千円、その他の関係会社有価証券488,466千円)は、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
未払費用否認	5,551千円	7,480千円
退職給付引当金損金算入限度超過額	32,107	26,099
貸倒引当金損金算入限度超過額	32,161	32,161
投資有価証券評価損	9,319	9,319
関係会社株式評価損	363,210	363,210
税務上の繰越欠損金	1,252,384	1,249,845
その他	12,289	14,222
繰延税金資産計	1,707,025	1,702,341
評価性引当額	1,707,025	1,702,341
繰延税金資産合計	-	-
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	1,991	3,094
繰延税金負債合計	1,991	3,094
繰延税金資産・負債( )の純額	1,991	3,094

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	税引前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。	30.86%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.92	
住民税均等割	88.68	
役員給与の損金不算入	33.75	
その他	3.03	
税効果会計適用後の法人税等の負担率		88.68

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却累計額 (千円)
有形固定資産						
建物	34,754	-	-	2,888	31,866	343,017
構築物	135	-	-	-	135	2,565
機械及び装置	2,775	-	-	346	2,428	499
車両運搬具	33	-	-	-	33	630
工具、器具及び備品	38,944	-	-	1,480	37,463	728,851
土地	922,096	-	-	-	922,096	-
建設仮勘定	673	-	-	-	673	-
有形固定資産計	999,413	-	-	4,716	994,697	1,075,564
無形固定資産						
電話加入権	3,369	-	-	-	3,369	-
借地権	14,846	-	-	-	14,846	-
ソフトウェア	4,711	-	-	1,223	3,488	94,661
ソフトウェア仮勘定	34,680	-	-	-	34,680	-
無形固定資産計	57,607	-	-	1,223	56,383	94,661

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	107,680	-	-	107,680
投資損失引当金	65,699	-	-	65,699
役員退職慰労引当金	1,048	-	-	1,048

( 2 ) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他のやむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行う。 当社の公告掲載URLは次のとおり。 <a href="https://www.eta.co.jp/">https://www.eta.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社は、単元未満株式についての権利に関し、以下のとおり定款に定めております。

当会社の株主(実質株主を含む。以下同じ。)は、その有する単元未満株式について、次の権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利



## 第7【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第38期）（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月26日関東財務局長に提出。

(2) 訂正有価証券報告書

事業年度（第38期）（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年12月25日関東財務局長に提出。

(3) 半期報告書

（第39期中）（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）平成29年12月26日関東財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年6月28日

イーター電機工業株式会社  
取締役会 御中

赤坂・海生公認会計士共同事務所

公認会計士 赤坂 満秋 印

公認会計士 海生 裕明 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているイーター電機工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

私たちは、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、イーター電機工業株式会社及び連結子会社の平成30年3月31現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 強調事項

継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、会社グループは当連結会計年度において20百万円の営業利益を計上したものの、営業キャッシュ・フローは6百万円のマイナスであり、その結果539百万円の債務超過の状態にある。また当連結会計年度末において有利子負債は1907百万円となっている。このことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に重要な不確実性が認められる。なお、当該状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は連結財務諸表には反映されていない。

当該事項は、私たちの意見に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年6月28日

イーター電機工業株式会社

取締役会 御中

赤坂・海生公認会計士共同事務所

公認会計士 赤坂 満秋 印

公認会計士 海生 裕明 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているイーター電機工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第39期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

私たちは、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、イーター電機工業株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 強調事項

継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、会社は当事業年度において49百万円の営業利益を計上したものの、542百万円の債務超過の状態にある。また当事業年度末において有利子負債は1,838百万円となっている。このことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に重要な不確実性が認められる。なお、当該状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は財務諸表には反映されていない。

当該事項は、私たちの意見に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。